

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成29年度第3回高松市創造都市推進審議会
開催日時	平成29年11月18日(土) 14:00~16:00
開催場所	
議 題	(1) 第2次高松市創造都市推進ビジョン(案)について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長、佃委員、大久保委員、木村委員、三井委員、小池委員、橋本委員、小林委員、山家委員、井本委員、渡邊委員
事務局	土岐創造都市推進局長、佐藤創造都市推進局参事、長井創造都市推進局参事、橋本経済産業部長、楠競輪場長、永正中央卸売市場長、岡中農林水産課長補佐、三宅土地改良課長、池田地籍調査室長、米井施設整備室長、里石観光交流課主幹兼都市交流室長、一原文化芸術振興課長、次田文化財課長、横山スポーツ振興課長補佐、合田美術館美術課長、佐野産業振興課長補佐、溝渕産業振興課長補佐、塩田産業振興課係長、松下産業振興課主事
傍聴者	1 人      (定員 10 人)
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

1 開会

【会長】

先日、今年のユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市が公表されたが、国内からは山形県山形市が映画分野で認定を受けた。2回目の申請により認定に至り、日本では、8都市が加盟していることになる。

まずは、議題(1)について事務局から説明をお願いします。

2 議題(1) 第2次高松市創造都市推進ビジョン(案)について

(事務局から資料説明)

【会長】

それでは委員の皆さんから、御意見をいただきたいと思う。

## 審議経過及び審議結果

### 【委員】

8～9ページの箇所だが、サンクリスタル高松の記述と屋島レクザムフィールドとの記述表現とを合わせるべきだろう。体裁は統一するように。

### 【委員】

ユネスコの可能性について御説明願いたい。

### 【事務局】

まずは、申請分野を固めることに注力するなどして、すぐに申請に取り組むのではなく、時間をかけて進めていきたい。

### 【会長】

今回認定となったタイのチェンマイも含め色々な都市の相談も受けてきたが、国内都市の事情も様々であった。今回認定となった山形市は、既に国際ドキュメンタリー映画祭に取り組み続けており、申請にあたっては、民間サイドの働きかけが強かった。申請過程で市長が交代したが、今回認定に至ったように民間から行政を動かした好例である。一方で、メディアアート分野で既に認定を受けている札幌市では、民間だけでなく、市長も積極的に取り組んでいた。分野も2つ3つ候補があり、1年かけてジャンルを絞り込んだような事例もある。ユネスコが唱えている「文化産業」について意識しながら、次期ビジョンの期間で何を具体化していくかを考えていけばいい。

### 【委員】

第2章の現況分析だが、過去よりも現在をより盛り込んではどうか。あと、市民に親しみを持ってもらえるようにイラストを増やしてほしい。

### 【会長】

過去の出来事は、これまでの創造都市のあゆみとして記載しておいた方がよいだろう。イラストについては、おっしゃるとおり多い方が市民にとって読みやすいものになるだろう。

### 【委員】

台湾の基隆（キールン）市などは知らない方は読めないなので、ふりがなをつけてください。あと、12～13ページの「インフラストラクチュア」や「ガバナンス」といった馴染みのない言葉には注釈をつけるようにしてください。最後に35ページにある「さぬきダイニング認定店舗数」は、平成29年度の数字が出ているので追記してください。平成29年度は高松市内に21店舗、県内では30店舗認定されています。

### 【委員】

屋島城についての記述が少ないように思う。41ページの屋島活性化推進事業の箇所でもいいので、もっと記述を増やすように。

【委員】

これまで出席できていない中恐縮ですが、タイトルは「魅力にあふれ、活力のある創造都市へ」で決定なのでしょうか。

【会長】

前回の審議では、何かサブタイトルを打ち出したらどうかという話になり、今回、資料の中で案を出してもらっている。他に何かエッジの効いたタイトル案がありましたら。

【委員】

タイトルの話は、全体的なイメージにも関わってくるため本当に大事なのだらうと思う。そういう意味で言うと、私は当初からもっとスポーツのことを取り入れてほしいと考えていた。そういった話を始めると、今日では結論をまとめることができず、タイトルの話にしても、この場でいいものに直せるならいいが、そうでないなら、全部がひっくり返ってしまうような怖さがある。

【会長】

そのあたりは確かに悩ましいですね。ただ、スポーツのところで言うと、今回は1ページの目的の箇所にも2020年オリンピック・パラリンピックについてははっきりと触れており、その文化プログラムも押し出しており、スポーツと文化の両方の意識は入っている。スポーツ計画ではないため、具体化して入れているわけではないが、2020というものが関係官庁の中で大きな目標になっている。

【委員】

この言葉は、総合計画にある「産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち」から作成したのではないか。

【事務局】

5ページの図においても、第6次高松市総合計画の中での創造都市の進め方を表現しているように、総合計画との整合性をとった言葉の表現としている。

【委員】

活力は何の活力なのか、主語がないので分かりにくいのかなと思う。

【会長】

第6次総合計画と整合性をとりながら、創造都市の方は、深掘りするというかエッジのきいた表現があってもいいのかといった御意見が出ている。

【委員】

今あるのは、少し客観的のように思うので、もう少し前のめり感というか、おらがまち感を出していくと皆さんがおっしゃっているようになると思う。

【委員】

ビジョンに関しては、先ほどもお話があったように、写真やイラストが全体的にもっと増やすと良いと思う。各プロジェクトの主な取組事業の箇所でも、1事業につき写真1枚あってもよいと思う。

スポーツに関する話だと、2020年東京オリンピックは大きな出来事だと思う。今年の7月に2020参画プログラムがスタートし、県内では9件のプログラムが参画している。2020に向けて文化プログラムはもちろん、スポーツでも高松市として申請できるものがあれば面白い。

また、最初のユネスコの話になるが、県外の方と話をしていると、高松市は「器用貧乏」だということをよくうかがう。ずば抜けてこれだ、というポイントが少ないので、例えば、アートならアートに絞ってアートとスポーツの取組を2020参画プログラムに申請する、といった方向性でも面白いと思う。

【委員】

私は、観光分野の枠として参加させていただいている。4年前の高松では、ホテルや簡易宿泊施設の事業は1件ぐらいしかなかったが、今では10件以上と、産業としての宿泊事業が10倍以上増えている。街並みにおいても、外国人観光客が普通に街中を歩いていたり、大きな変化があったのではないか。資料に反映するかどうかは別として、今、高松市は外国人観光客向けのWEBサイトを作成しているが、そういった取組も市民の方に知っていただけると良いと思う。

【会長】

ありがとうございます。インバウンドの流れは、日本全国で見ると、上手くいっているところと、そうでないところの差が大きくなっていて、高松・香川の場合は、国際芸術祭がインパクトを持ちながら、盆栽など突出しているものがあると思う。そういった意味で言うと、もう少しメリハリやパンチをきかせた工夫のある表現でも良いと思う。

【委員】

今、最初の題を考えていたが、市民が出てきていない。そこから「魅力にあふれ、人が輝く」としてはどうか。

【会長】

なかなかいいかもしれない。

【委員】

端的に言い切るぐらいの勢いでいくのなら、ル・コルビジユエが提唱した「輝く都市」のようなワンフレーズで全てを包括する、衝動的なものでも良いのではないかと思う。

【会長】

キーワードとして「輝く」という言葉が出てきて、いくつかのバージョンが考えられる、といったところか。

【委員】

創造都市に私が関わった最初の想いというのが、高松に来てほしいと同時に、住んでもらいたくなる都市というイメージがあり、それは先ほどあった「器用貧乏」であることがピッタリ当てはまるのではないかとも思う。住みやすいまちであることを「器用貧乏」ではなく、「多様」や、それこそ「輝く」といった言葉で表現できるのではないかと思った。

【会長】

ありがとうございました。それでは、一つの案として「魅力にあふれ、人が輝く創造都市へ」か、もう一つの案として「輝く都市へ」か。どちらかで採決をしたい。採決の前に何か御意見でもあれば。

【佃会長】

このビジョンは皆が見るものであって、市民全体に伝えるものとしては、「人」が入った方がいいと思う。

【会長】

他に御意見はないか。それでは採決を行いたいと思う。

(採決の結果、「魅力にあふれ、人が輝く創造都市へ」が賛成多数で可決)

【会長】

ありがとうございました。本日は、大枠としてはこれをもって決定としたい。いくつかの細かい点は、今後修正されたい。

3 議題（2）その他

では、議題（2）について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料説明)

【会長】

今の説明の中で何か御意見はあるか。なければこれにて審議を終了したい。

【事務局】

それでは、ただ今の御審議を受け、資料を修正させていただきます。資料の修正にあたり、御時間を要しますことからそれまで、今回の審議会の会場であります高松市ヨット競技場について御説明をさせていただきたく存じます。

(高松市ヨット競技場案内)

【事務局】

お待たせいたしました。それでは修正版の資料を配付いたします。

(事務局から修正版の資料を配付後、修正箇所について説明)

【会長】

それでは、この修正をもって本審議会の答申としてよろしいか。

(全会一致により可決)

#### 4 答申

【事務局】

それでは、会長から大西市長へ、答申文をお渡しいただきたく存じます。

(会長から大西市長へ答申文を提出)

(市長挨拶)

#### 5 閉会

【会長】

市長を始め、市当局には答申の趣旨を尊重し、適切な対応をお願いしたい。

国内の創造都市の動きでは、創造都市ネットワーク日本に加入している自治体数は、90に近づいているところだが、その中で高松市は全国でも珍しく、審議会を設置し、組織として創造都市推進局がある。これは、市長が大変強いリーダーシップをとっており、まだまだ潜在力も発揮できるように思われる。第一次の期間でも相当な実績があると聞くが、そこからさらに高みを目指していく。それもあり、タイトルにも「輝く」という言葉を入れたが、非常に良かったと思われる。瀬戸内から世界に向かって輝く、そういう強い光を放ってほしいと思う。そうすると案外ユネスコもすぐに認定ということになるのではないか。この光は、市長だけでなく皆さん方がそれぞれ強い思いをお持ちになれば、それだけ強い光になるだろう。

本日、このような素晴らしい答申がまとめられたのは、ひとえに皆様の御協力によるものである。改めて感謝申しあげたい。